

## 問題発見型／解決型学習(FBL/PBL) (社会情報学専攻)

## テーマ提案 (学生募集内容) / Project Proposal

テーマ名称 Project name	「記憶に残る」ミュージアム鑑賞体験をもたらす情報アクセスシステム Information Access System that Brings “Memorable” Museum Experience
実施責任者 Instructors	情報学研究科社会情報学専攻 助教 山本岳洋
実施協力者 Collaborators	デザイン学ユニット 特任准教授 大島裕明 デザイン学ユニット 非常勤講師 白石晃一 国立民族学博物館 特別客員教授 辻邦浩 国立民族学博物館 准教授 寺村裕史
テーマの背景 Background	現在、多くの美術館や博物館では、電子ガイドや電子ナビなどの情報端末が館内で利用できるようになってきている。そのような端末では、展示物の詳細情報やおすすめの見学経路情報が提供される。情報端末からは多くの情報が提供されるようになってきているが、はたして、見学で得られた知識を定着することに役立っているだろうか？見学するときは憶えたような気になっていても、しばらくすると忘れてしまうといったことはないだろうか？本テーマでは、美術館や博物館での鑑賞体験が、「記憶に残る」ようにするためにはどのような情報アクセスシステムが必要になるかという課題に取り組む。
実習の概要・実施場所 Overview and location	国立民族学博物館をフィールドとして、ミュージアムにおける新しい情報アクセスシステムを提案し、そのプロトタイピングを行う。たとえば、より能動的に展示物のことを知ろうとさせたり、複数の展示物を比較する観点を与えたりすることで、「記憶に残る」ミュージアム鑑賞体験を実現させることを目指す。実習は2週間に一回実施する。実施場所は、京都大学と国立民族学博物館で行う。具体的なプロトタイピングを実装し、提案システムをミュージアムで利用した場合にどのような体験が得られるかという知見を得ることを最終目標とする。
実施言語 Language	日本語のみ
募集人数 Number of participants	2名以上、6名以下
応募資格 Intended participants	京都大学大学院生 応募多数の場合は、社会情報学専攻の学生とデザイン学履修者を優先。 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険に加入していること。
応募方法 How to apply	10月19日(金)までに実施責任者 山本 (tyamamot@dl.kuis.kyoto-u.ac.jp) に参加申込を行うこと。  旅費に関して以下から選択すること □専攻からの旅費サポートが必須 □専攻からの旅費サポートがなくても参加する

関連するデザイン理論/ 手法とその学習方法 Design theories and methods for framing and solving problems	関連する分野：情報検索、図書館情報学 関連する講義：情報社会論、情報システム設計論、情報組織化検索論 (ただし、演習中に関連する知識を適宜提供するため、上記講義の履修は必須 ではない) デザイン手法：プロトタイピングやアイディエーションの手法など、適宜演習 中に紹介する。
成績評価および成果の 公開方法 Evaluation and publication	出席・活動状況 (60%)、最終成果物・プレゼンテーション (40%) を評価す る。最終成果物 (プレゼンテーション資料、デモビデオなど) は専攻 Web で 公開することがある。
特記事項 Special remarks	テーマに関する質問があればメールで受け付ける。 宛先: tyamamot@dl.kuis.kyoto-u.ac.jp

## 実施計画 / Schedule

コマ Unit	日程 Date	場所 Location	実施内容 Content
2	10月29日 (月)	京都大学 デザインファ ブリケーション 拠点	アイスブレイクおよび問題意識の共有。 既存のミュージアムにおける電子ガイドやナビに関するサーベ イ。プロトタイピングに関連したデザイン手法について学び、グ ループとしての今後の進め方を議論。
2	11月5日 (月)	国立民族学博 物館	国立民族学博物館 (みんぱく) を訪問し、一般客として1時間の 見学 (入館費無料、旅費サポート予定)。 その後、問題点やシステムが提供すべき体験に関するグループワ ーク。
2	11月19日 (月)	京都大学 デザインファ ブリケーション 拠点	各自が考えてきたアイデアのプレゼンテーション。 みんぱくが考えている次世代情報システムについて学ぶ。 グループワークを行い各自のアイデアをさらに拡張し、グループ としての方針を固める。
2	12月3日 (月)	国立民族学博 物館	みんぱくにおいて、グループの方針に照らし合わせながら、各自 がスケッチブックを持ってデモワーク。 その後、グループワークし見つけた問題点の共有。 再度、みんぱくを見学し課題の再確認。
2	12月17日 (月)	京都大学 デザインファ ブリケーション 拠点	グループワークで、プロトタイプ作成。
2	1月7日 (月)	京都大学 デザインファ ブリケーション 拠点	グループワークで、プロトタイプ作成。
2	1月21日 (月)	国立民族学博 物館	みんぱくにおいて、完成させたプロトタイプを利用するとどのよ うなミュージアム鑑賞体験が得られるかのデモを作成。
1	1月25日 (金)	京都大学	社会情報学専攻修士1回生の中間発表会において、最終成果に関 するプレゼンテーションを行う。